

## 学長定例記者会見要項

日 時： 令和2年4月16日（木） 11：00～11：30

場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項
------

1. 新型コロナウイルス感染症への対応状況について

（参 考）

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和2年5月21日（木） 11：00～11：45

場 所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

## 学長定例記者会見（4月16日）発表者

### 1. 新型コロナウイルス感染症への対応状況について

学長

たまたま ひでとし  
玉手 英利

令和2年（2020年）4月16日

## 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応状況について

山形大学では「新型コロナウイルスに係る総合対策本部」を1月31日に設置し、学生や教職員への対応方針を検討・決定してきました。昨日4月15日までに合計15回の対策本部会議を開催しており、特に新学期の授業や本学における活動制限等について、現在の状況をお知らせします。

※今後さらにスケジュールや対応を変更する場合がありますので、ご承知おきください。

### 1. 3大学（山形大学・東北芸術工科大学・東北文教大学）学長による共同メッセージの発信について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けて、各大学が講じている対策・対応へのご理解ならびに学生支援へのご協力をお願いについて、山形市内に本部を置く3大学の学長が共同でメッセージを発信しました（本日4月16日各大学ホームページ掲載、別紙参照）。地域に暮らす皆様の健康を第一に、未来を担う若者への教育を絶えず継続していくという決意と、大学教育へのご理解、ご協力をお願いする主旨です。

### 2. 前期授業の日程等について

#### ① 新入生（学部1年生）への対応

- ・教室を使用しての面接授業（基盤共通教育の授業）は、当初予定していた5月7日からの開始を変更し、前期期間（8月上旬まで）は原則として実施しない。やむを得ず実施する実技・実習等は、感染症対策に注意した上で、学部長の判断により実施する（4月14日に対策本部決定）。
- ・健康状態の確認を徹底し、不要不急の外出を控えるよう引き続き指示し、心身のサポートに努めていく。

#### ② 在学生（学部2年生以上）への対応

- ・教室を使用しての面接授業（学部の専門教育）の開始は、当初予定していた4月20日からの開始を変更し、前期期間（8月上旬まで）は原則として実施しない。やむを得ず実施する実技・実習等は感染症対策に注意した上で、学部長の判断により実施する（4月14日に対策本部決定）。
- ・健康状態の確認を徹底し、不要不急の外出を控えるよう引き続き指示し、心身のサポートに努めていく。

#### ③ 大学院の新入生、在学生への対応

- ・①及び②に準じて対応する。

### 3. 学生の就職活動について

インターネットをはじめ多様な通信手段を活用した企業説明会や面接等の試験実施の配慮について、学長から企業へ要請の文書を発出しました（4月3日に発出）。

#### 4. 附属学校園の学校再開について

山形市内小中学校の決定に準じて、5月7日まで休校延長とし、学校再開を5月8日とする。

入学（園）式については、十分な感染症対策の上、4月下旬、5月上旬に各学校園で実施を予定している。

#### 5. 本学における新型コロナウイルス感染症に係る活動制限について

学内で定めた「山形大学における新型コロナウイルス感染症に係る活動制限指針」に基づき、活動制限レベル4段階のうち、4月7日から現状をレベル2（業務の一部制限）とし、さらに教育に関しては、4月14日からレベル3としています。詳細は下記のとおりです。

① 教育について（レベル3）

すべてオンライン授業とする。

② 研究活動について（レベル2）

感染拡大に最大限の配慮をして、最小限の人数で継続する。学生、研究員等研究室関係者は、現場での滞在時間を減らし、可能な場合は自宅で作業する。

③ 学生支援について（レベル2）

サークル活動は全面停止とする。また、窓口業務は、奨学金手続きなど最小限の対応とする。

④ 学内業務について（レベル2）

部局長等の判断により、必要に応じて自宅勤務を指示する。

⑤ 対外業務について（レベル2）

緊急事態宣言で指定された地域への出張を原則禁止する。やむを得ず、出張等により当該地域に移動し、帰県した場合は、健康状態の把握のため、14日間の自宅待機とする。

お問い合わせ

山形大学エンロールメント・マネジメント部 広報室（笠原）

TEL 023-628-4008 メール koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

令和2年4月16日  
国立大学法人山形大学  
東北芸術工科大学  
学校法人富澤学園東北文教大学



「地域の皆様へのメッセージ」

## 1. 前文（山形大学・東北芸術工科大学・東北文教大学の共通メッセージ）

若者の行動、各地域からの人の流動など、感染拡大防止に向けて各大学がどう対応するかが、社会的関心を集めています。安全と健康を第一に掲げながらも、大学の社会的使命である教育、研究、地域貢献活動を続けるには、何よりも地域の皆様からのご支援が欠かせません。

この状況をふまえ、山形市に本部を置く山形大学、東北芸術工科大学、東北文教大学の3大学が共同で、大学教育へのより一層のご理解について、地域の皆様へメッセージを発信させていただきます。

### ◆私たちは、人々の健康を守ることを最優先に考え、大学の使命を果たします。

学生・教職員はもとより、地域に暮らすあらゆる皆様の健康と、安全で安心した生活を確保するために、地域に根ざす高等教育機関として、最大限の努力を続けていきます。

### ◆私たちは、いかなる場合でも、未来を担う学生への教育を継続します。

学生は未来の地域を支える、大切な存在です。どのような状況下でも、知恵を絞り、あらゆる手段で、熱意ある学生たちへ修学機会を提供し続けます。

## 2. 山形大学からのお願いと決意

日頃から、山形大学の教育・研究活動へのご理解、学生へのご支援を賜り、感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、私たちが暮らす山形県もまた、大きな動揺と不安に包まれておりますが、山形大学では、あらゆる人の健康を守ることを最優先に考えながら、大学の社会的使命である、教育・研究・社会連携を絶やしてはならないと考えています。

本来であればこの4月は、希望と期待に胸を膨らませた新入生と在学生在がキャンパスに集い、1年で最も活気に溢れた季節を迎えているところでしたが、感染症の拡大防止を何よりも最優先に、入学式中止という苦渋の判断をしました。この前期期間の授業も、原則としてオンラインで行うことを先日決断し、リスクとなる3つの密を避けながら、教育を続けるための努力を、教職員それぞれが続けております。

県内外から進学してきた学生たちには、国や県の指針に従って不要不急の外出や往来を避け、自宅で大学生としての学びに向き合うよう、指示やケアを日々徹底しております。具体的には、課外活動の自粛、クラスターとなりうる場所を避ける行動、体調に不安がある場合の14日間の自宅待機など、様々な対策を講じ、感染拡大の抑制に努めております。

言うまでもなく、学生は私たちの社会の未来を担う大切な人材です。若者たちの行動に社会から厳しい目が向けられる状況に大学としても正面から向き合い、社会の構成員の一人であるという強い自覚を、今一度、学生一人ひとりに促して参る所存です。

今は先が見えないこのパンデミックも必ず収束し、今までの落ち着いた暮らしを取り戻す日がやってくると信じています。危機に直面した際にどう行動するか、学生たちに人間としての成長を呼び掛けるとともに、教職員一同、地域社会の皆様と共に学生を守り育て、この危機を乗り越えて参ります。

この非常な状況においても、どうか引き続き山形大学へのご理解とご支援を賜りますよう、あらためてお願いを申し上げます。

令和2年4月16日  
山形大学 学長 玉手英利

### 3. 芸工大として何をすべきか

日頃より東北芸術工科大学をご支援いただきありがとうございます。

美しい春の香りの広がる山形にも、ついに世界に広がるウィルスの脅威が届いてしまいました。県からは緩やかな休業要請が出されていますが、芸工大は授業を始めなければなりません。大学といたしましては、文科省からの全国大学一斉休止等の強い指示でもない限り、学生への教育活動を継続しなければならないからです。

このウィルスから身を守るにはもう「移動しない、家を出ない、人に会わない」ことしかありません。芸工大は既に発表されている通り5月18日から始業いたしますが、全ての授業を「学生が移動せずに自宅で受講できる」よう、インターネットなどを活用したりリモート形式で行うことと決定し、県からの要請にお応えする形の準備を続けております。

全国から学生が集まり、首都圏からの通勤教員やゲスト教員も多いことが芸工大の特徴でしたが、県外からの学生の移動はすでに制限しており、全ての学生の大学への立ち入り、及び首都圏からの教員の移動も停止します。

芸工大は、日頃より県民のみなさんや地域社会に学ばせていただいています。本来ならば、このような窮地にこそ、本学の有する知見や学生たちのアイデア、デザインとアートの力を結集し、芸工大らしい明るさで地域のお役に立ちたいところです。多くの学生たちも何か行動を起こしたいと躍起になっています。しかしながら、学生たちを集結させること自体が憚られ、逆の影響を懸念せざるを得ない状況に、言いようのないジレンマを抱えております。

芸工大生の約1,800人は、この地域に暮らす住民です。高齢化が進むこの山形に多くの学生が住まう状況は、決して芸工大だけの心配事ではありません。

学生に向けては、できるかぎりの感染予防、地域への責任、自己管理の重要性を説き、指導する所存です。なによりも学生とご家族自身も大きな不安を抱えたままの始業ですが、是非とも地域のみなさまからのご協力とご理解をいただきますよう宜しくお願いいたします。

ウィルス問題収束後の山形を明るく照らすために、東北芸術工科大学は、しばらくじっと力を蓄えておくことにします。

令和2年4月16日  
東北芸術工科大学 学長 中山ダイスケ

#### 4. 東北文教大学の取り組み

地域の皆様には日頃より、東北文教大学・東北文教大学短期大学部の教育・研究活動へご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する社会情勢にあって、さまざまな困難や不安の中でお過ごしのことと拝察申し上げます。東北文教大学では、学生・教職員の健康を確保し、学内外への感染を最大限防止しながら、教育と研究を行い、地域社会に貢献していく所存です。

今年度の前期の授業の開始は、当初の予定を遅らせて5月4日といたしました。実施する授業においては、遠隔授業を組み合わせながら、3つの密（密閉・密集・密接）を避けるための十分な対策を施し、学生が安全な環境で学修できるよう努めてまいります。

学生は自宅に留まることを強く求められている中で日々を過ごしており、不安も大きいかと思えます。心まで孤立することのないよう、学生には大学の主な施設を閉鎖せず利用できるようにします。もちろん、感染症予防を徹底しながらの利用です。また、一人暮らしの不安や困りごとなど、学生からの相談にも窓口を設けて学生を支援する体制をとっています。大学職員においても、3つの密を避ける措置を講じながら、感染の拡大抑止に努めています。

本学には、教育、保育、福祉の分野の仕事に就くことを希望する学生が多くいます。子どもたちの成長や人々の豊かな人生を支えることができる人材として地域社会で活躍することが強く期待されています。そうした社会の期待に応えるためにも、私たち教職員は、一丸となってこの危機を乗り越え、教育・研究に取り組みます。そして、社会における危機を自分の課題としてとらえ、適切に行動できる人間となるよう学生を育ててまいります。

東北文教大学は、感染症対策に万全を期して取り組むとともに、学生には、地域社会の構成員の一人であるという自覚を促し、地域社会と連携して対応していきたいと考えております。

令和2年4月16日  
東北文教大学 学長 須賀一好